

図表集

図 1-1	福島第一原子力発電所 1号機から 4号機	建屋平面図	……2
図 1-2	福島第一原子力発電所 5号機から 6号機	建屋平面図	……3
図 2-1	福島第一原子力発電所 1号機	建屋断面図	……4
図 2-2	福島第一原子力発電所 2号機	建屋断面図	……4
図 2-3	福島第一原子力発電所 3号機	建屋断面図	……5
図 2-4	福島第一原子力発電所 4号機	建屋断面図	……5
図 2-5	福島第一原子力発電所 5号機	建屋断面図	……6
図 2-6	福島第一原子力発電所 6号機	建屋断面図	……6
図 3-1	原子炉水位計の概略範囲 (福島第一 1号機)		……7
図 3-2	原子炉水位計の概略範囲 (福島第一 2号機)		……8
図 3-3	原子炉水位計の概略範囲 (福島第一 3号機)		……9
図 3-4	原子炉水位計の概略範囲 (福島第一 4号機)		……10
図 3-5	原子炉水位計の概略範囲 (福島第一 5号機)		……11
図 3-6	原子炉水位計の概略範囲 (福島第一 6号機)		……12
図 4-1	直流電源系統 (1号機)		……13
図 4-2	直流電源系統 (2、3号機)		……14
図 5-1	福島第一原子力発電所 4号機、5号機	系統構成図	……15
図 5-2	福島第一原子力発電所 6号機及び福島第二原子力発電所 1号機から 4号機	系統構成図	……15
図 6	原子炉格納容器への窒素ガス封入	系統概略図	……16
表 1-1	1F-1 非常用炉心冷却系 (ECCS系)	機器等の状況	……17
表 1-2	1F-2 非常用炉心冷却系 (ECCS系)	機器等の状況	……18
表 1-3	1F-3 非常用炉心冷却系 (ECCS系)	機器等の状況	……19
表 1-4	1F-4 非常用炉心冷却系 (ECCS系)	機器等の状況	……20
表 1-5	1F-5 非常用炉心冷却系 (ECCS系)	機器等の状況	……21
表 1-6	1F-6 非常用炉心冷却系 (ECCS系)	機器等の状況	……22

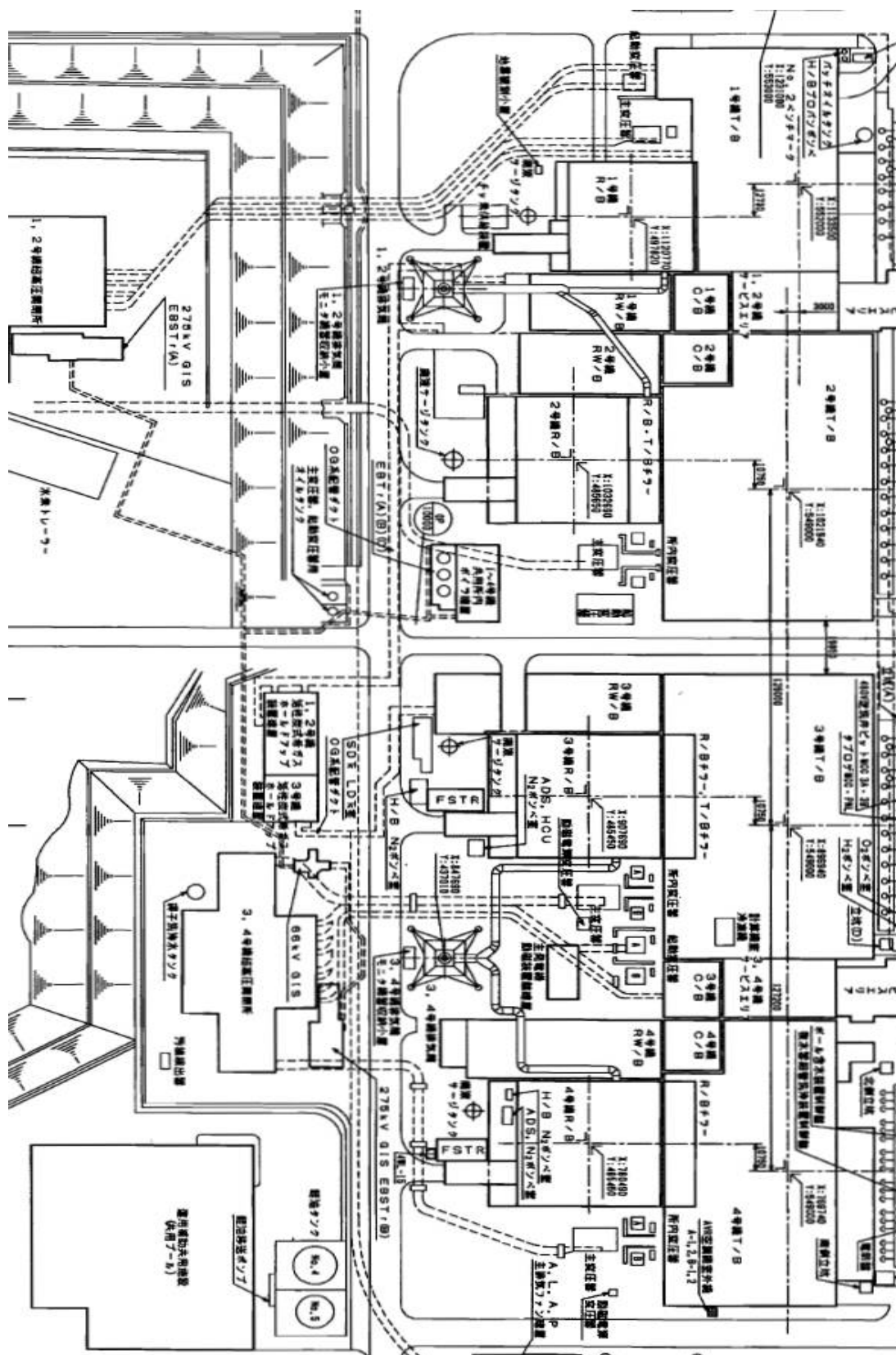


図 1-1 福島第一原子力発電所 1号機から 4号機 建屋平面図

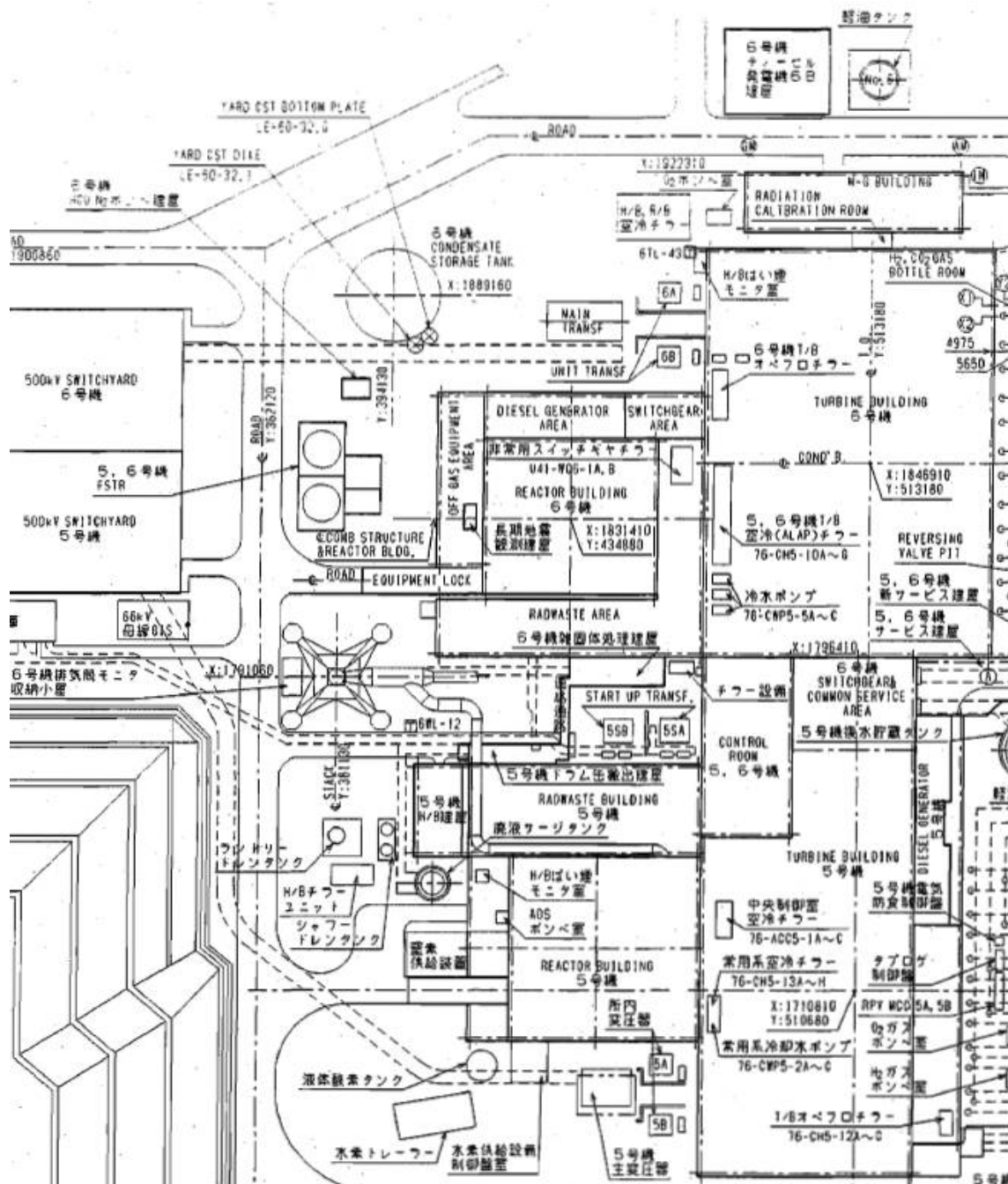


図 1-2 福島第一原子力発電所 5号機から 6号機 建屋平面図

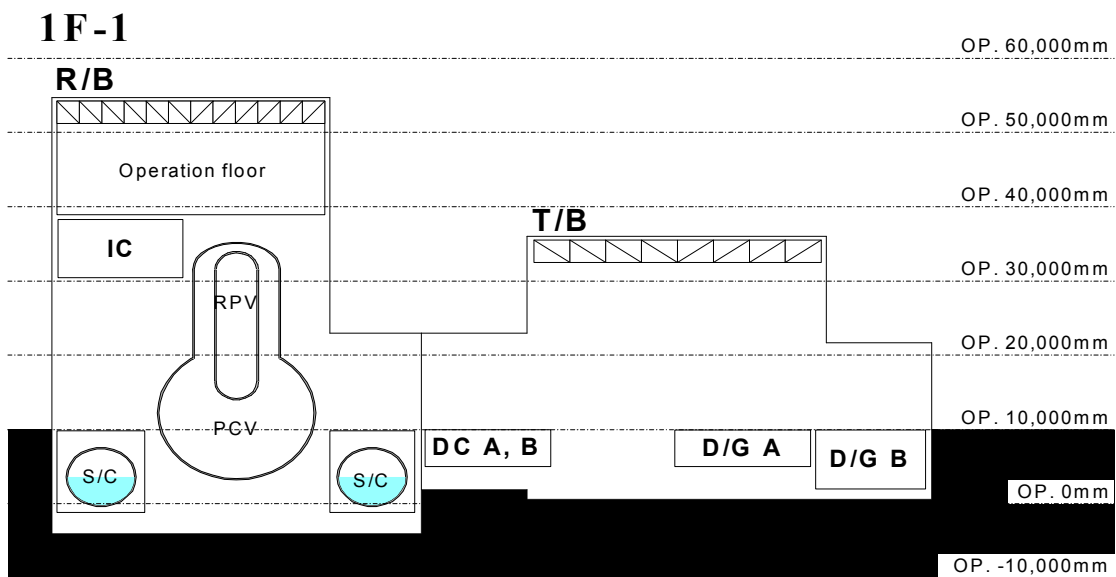


図 2-1 福島第一原子力発電所 1号機 建屋断面図

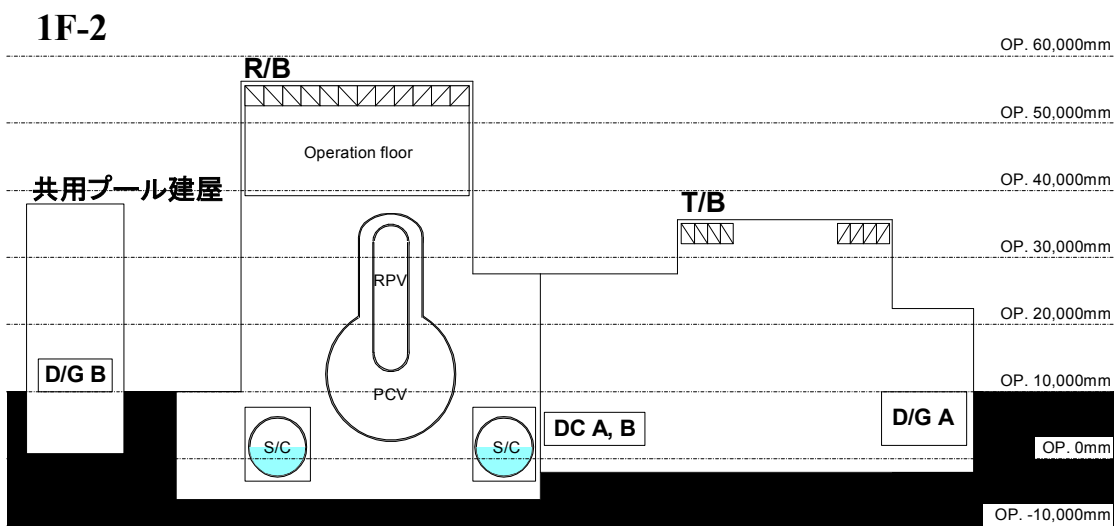


図 2-2 福島第一原子力発電所 2号機 建屋断面図

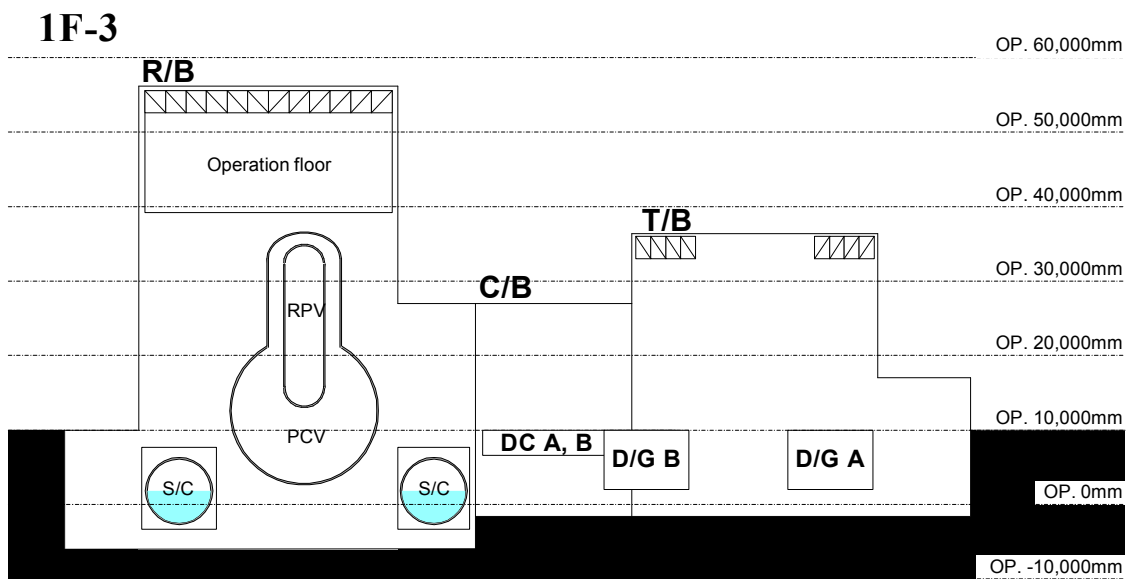


図 2-3 福島第一原子力発電所 3号機 建屋断面図

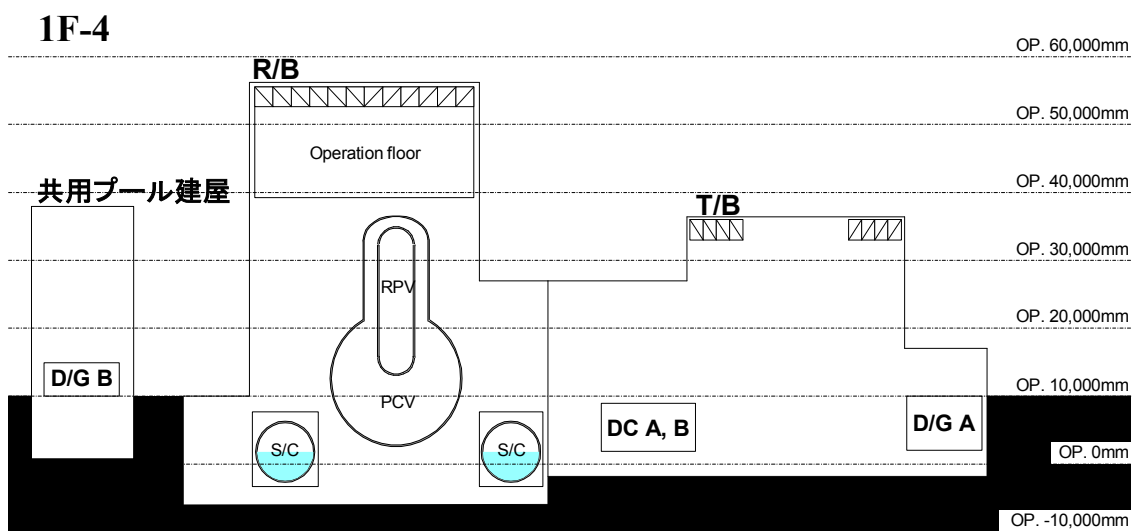


図 2-4 福島第一原子力発電所 4号機 建屋断面図

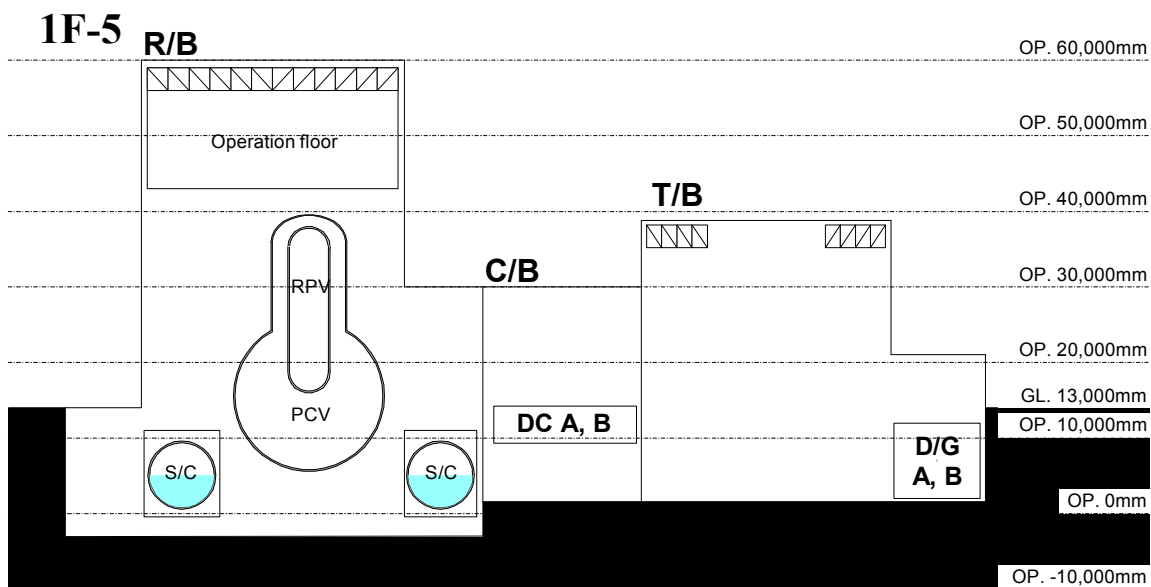


图 2-5 福島第一原子力発電所 5号機 建屋断面図

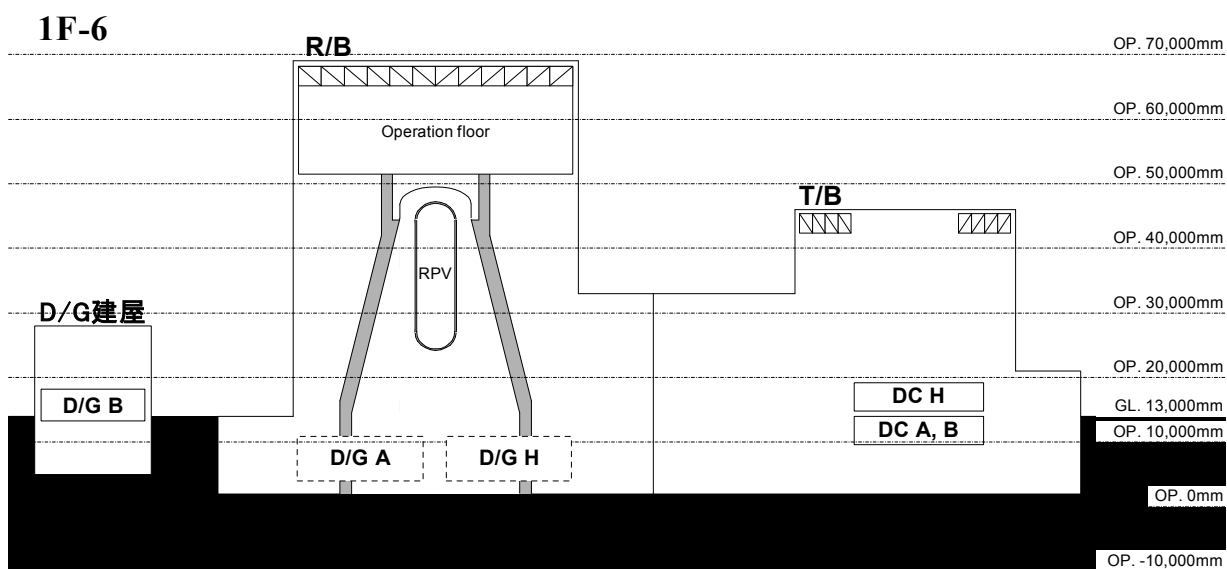


图 2-6 福島第一原子力発電所 6号機 建屋断面図

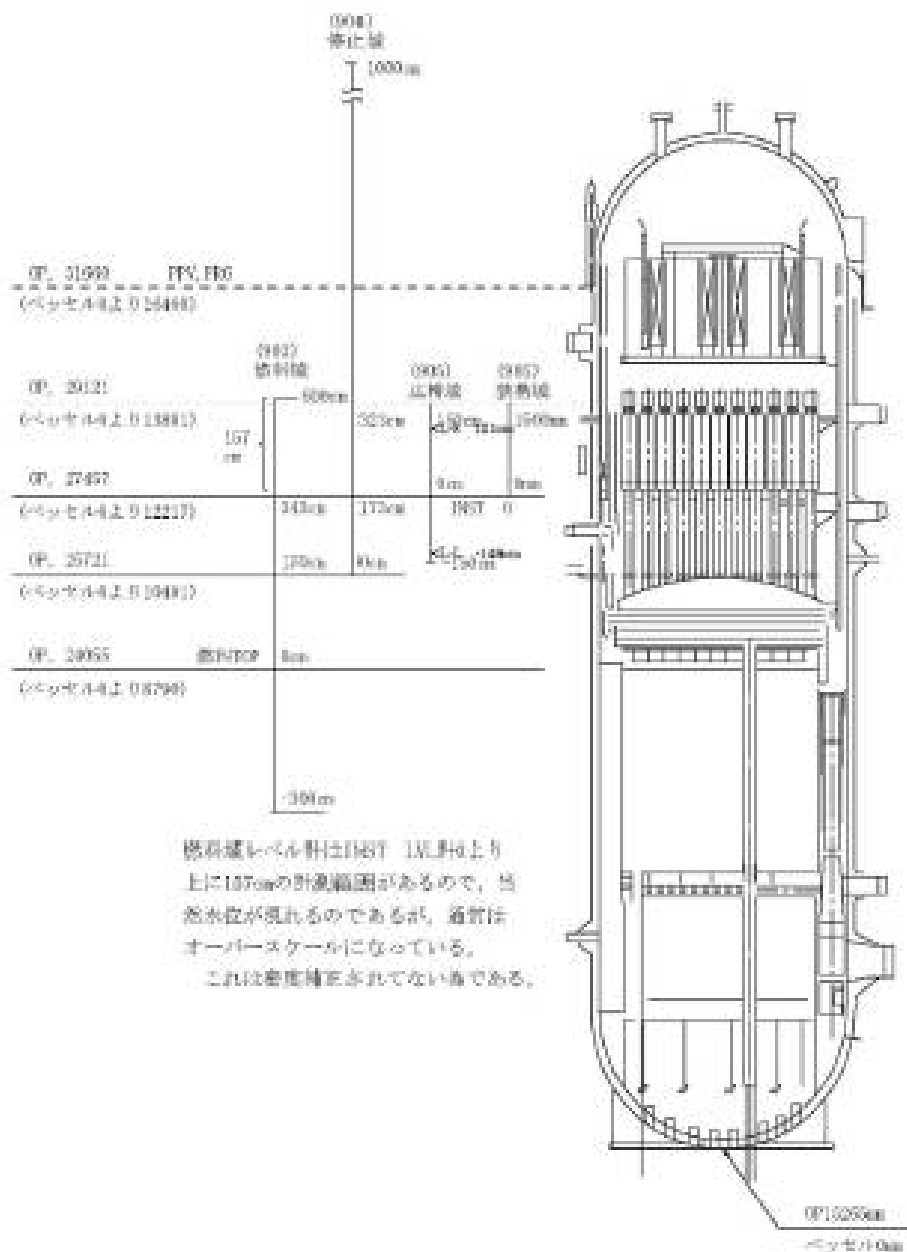


図3-1 原子炉水位計の概略範囲（福島第一1号機）

【出典】「東北地方太平洋沖地震発生当時の福島第一原子力発電所運転記録及び事故記録の分析と影響評価について」（平成23年5月23日 東京電力株式会社）

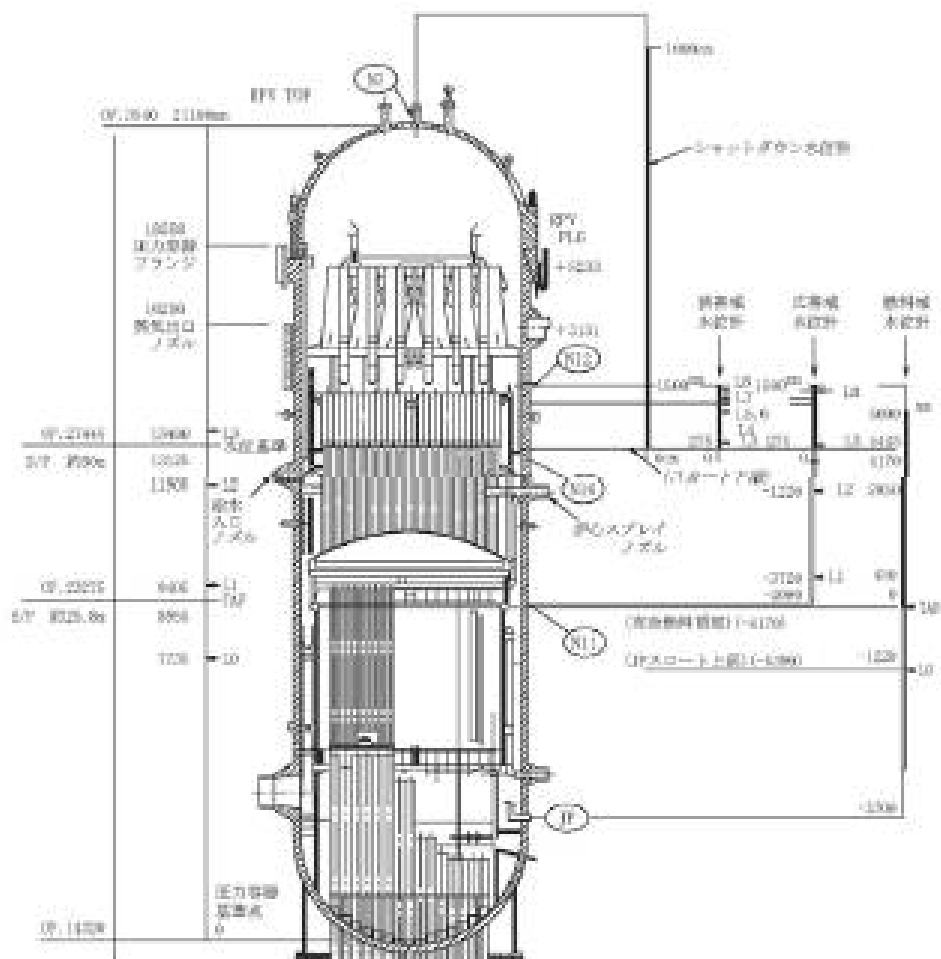


図3-2 原子炉水位計の概略範囲（福島第一2号機）

【出典】「東北地方太平洋沖地震発生当時の福島第一原子力発電所運転記録及び事故記録の分析と影響評価について」（平成23年5月23日 東京電力株式会社）

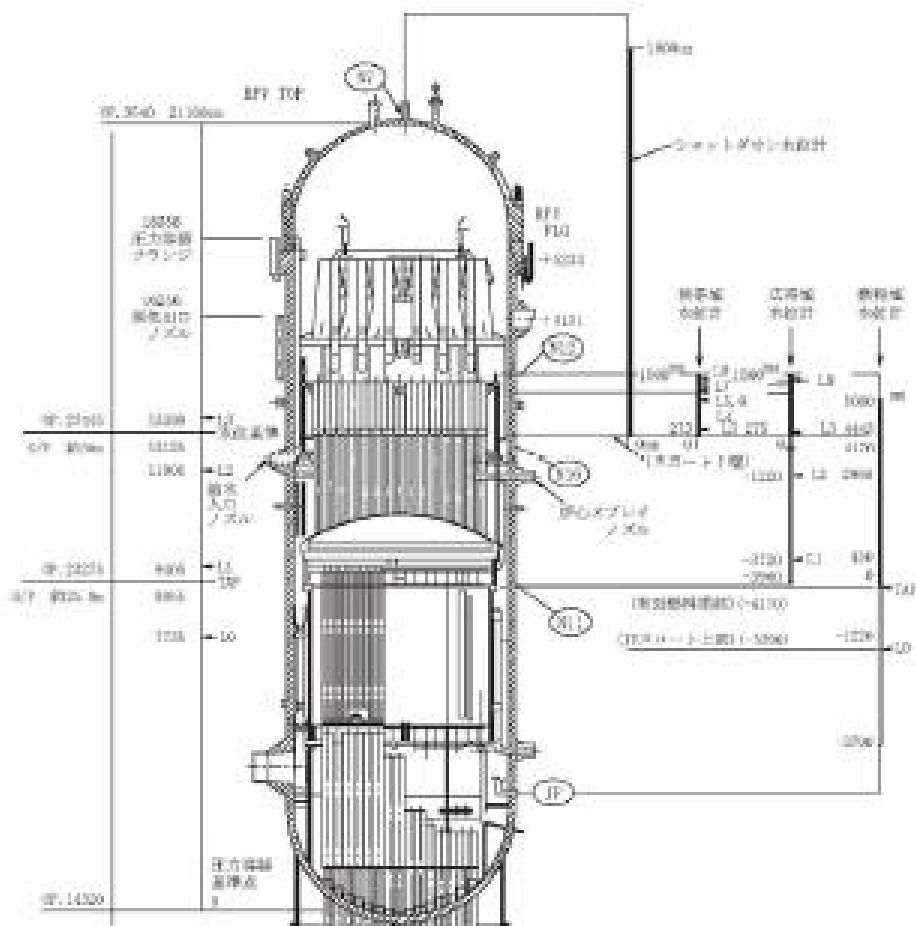


図3-3 原子炉水位計の概略範囲（福島第一3号機）

【出典】「東北地方太平洋沖地震発生当時の福島第一原子力発電所運転記録及び事故記録の分析と影響評価について」（平成23年5月23日 東京電力株式会社）

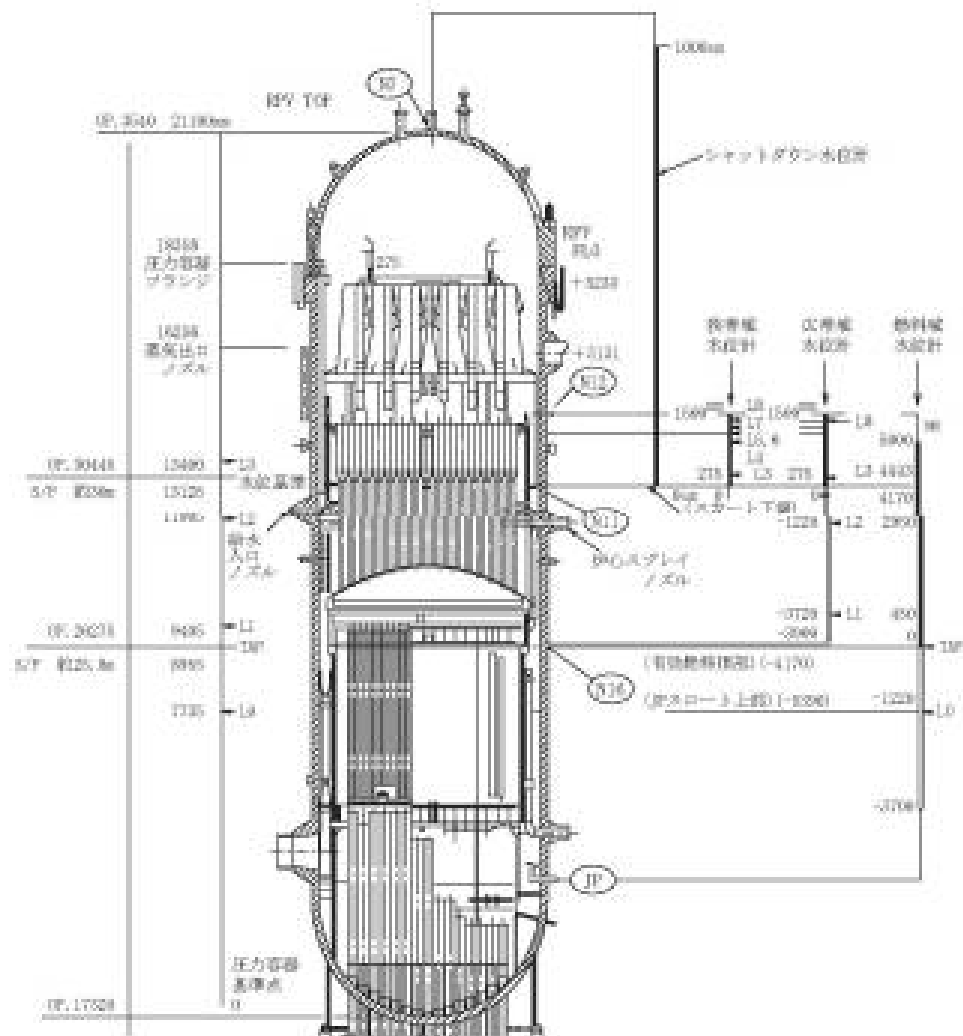


図3-5 原子炉水位計の概略範囲（福島第一5号機）

【出典】「東北地方太平洋沖地震発生当時の福島第一原子力発電所運転記録及び事故記録の分析と影響評価について」（平成23年5月23日 東京電力株式会社）

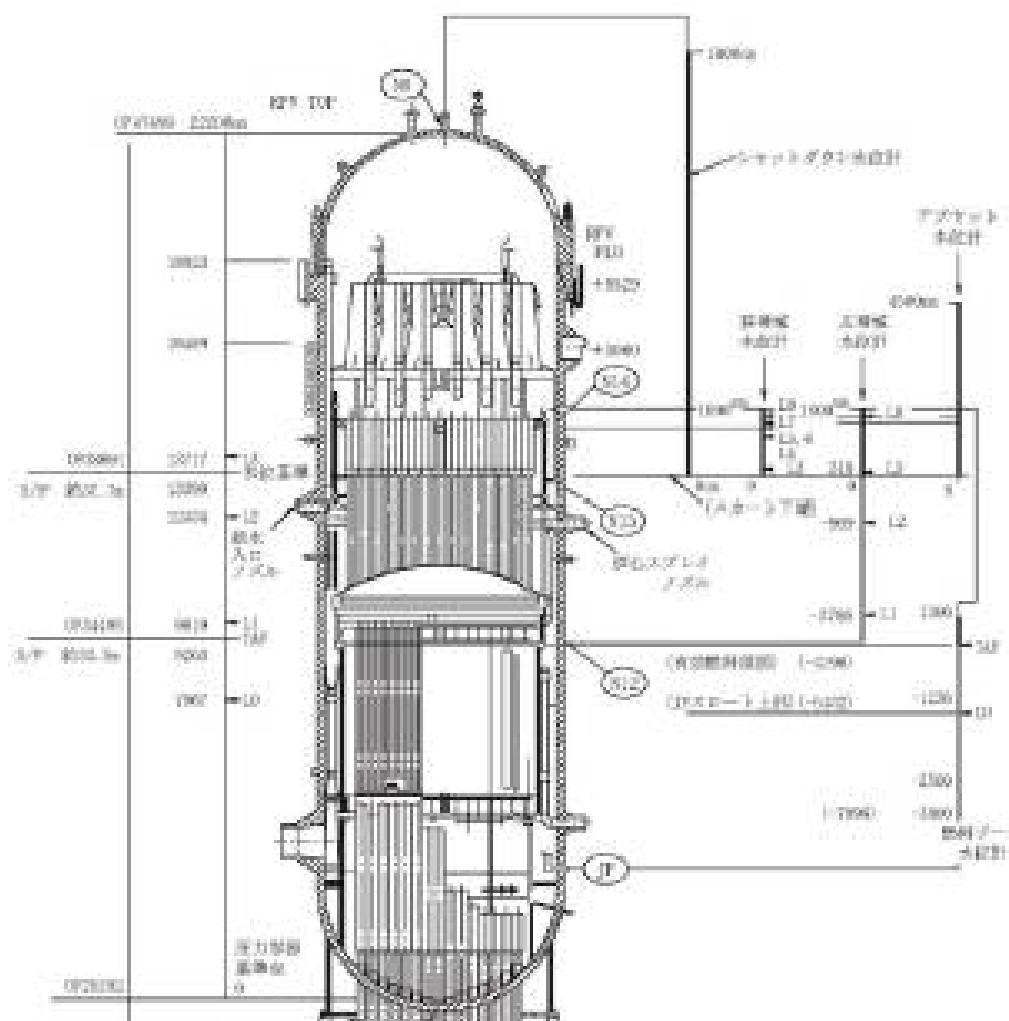


図3-6 原子炉水位計の概略範囲（福島第一6号機）

【出典】「東北地方太平洋沖地震発生当時の福島第一原子力発電所運転記録及び事故記録の分析と影響評価について」（平成23年5月23日 東京電力株式会社）

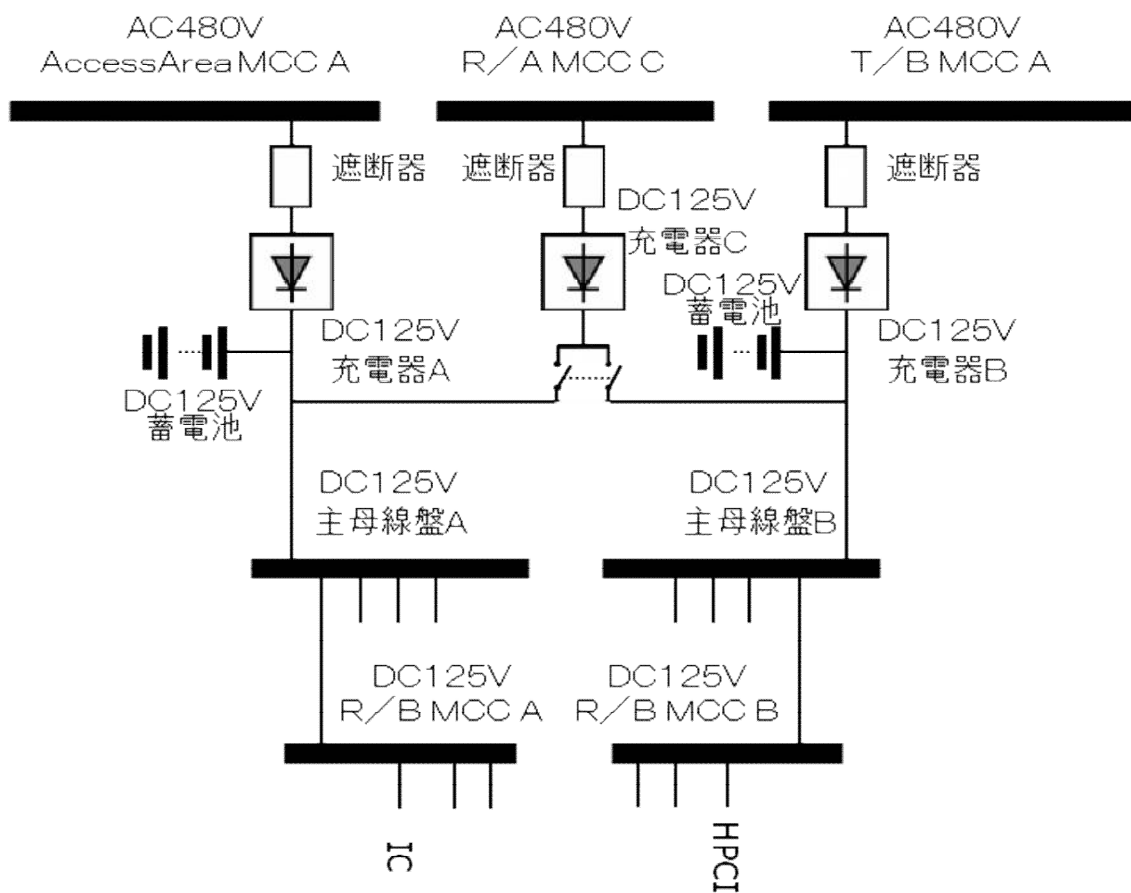


図4-1 直流電源系統（1号機）

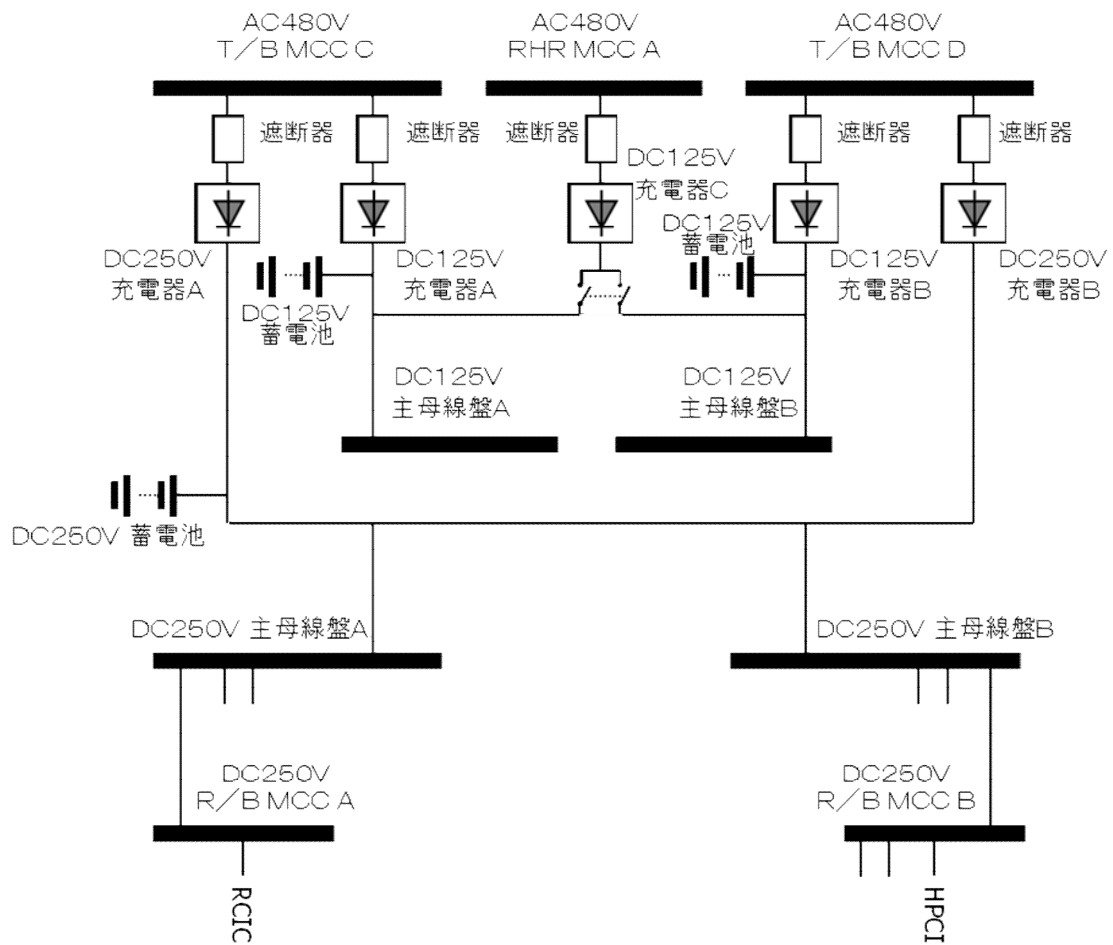


図4-2 直流電源系統（2、3号機）

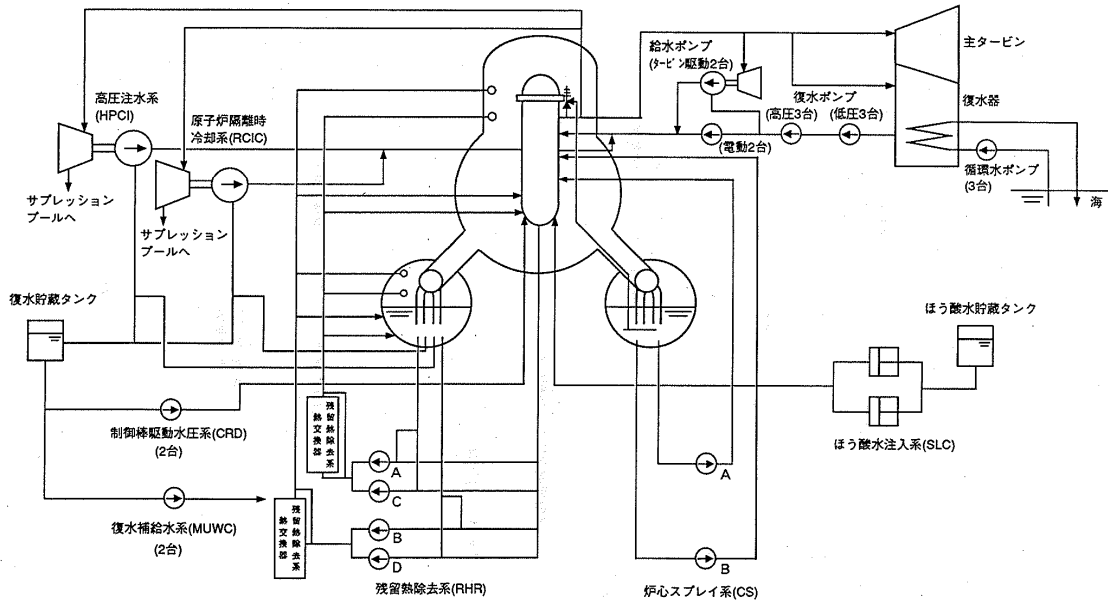


図5-1 福島第一原子力発電所4号機、5号機 系統構成図

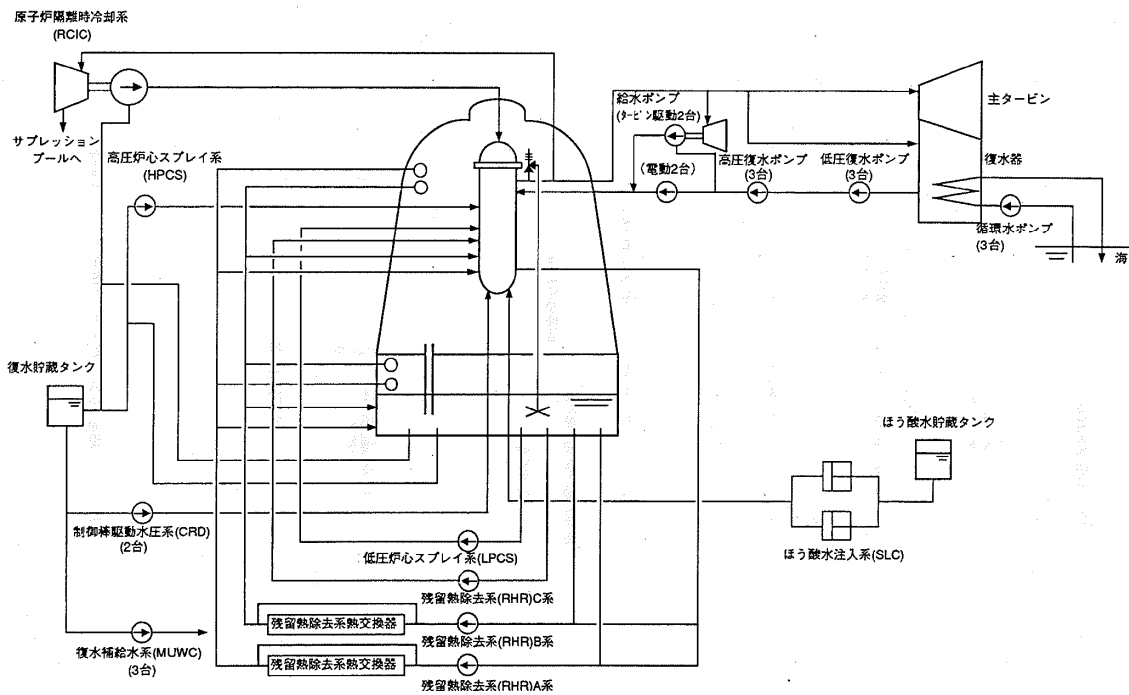


図5-2 福島第一原子力発電所6号機及び福島第二原子力発電所1号機から4号機 系統構成図

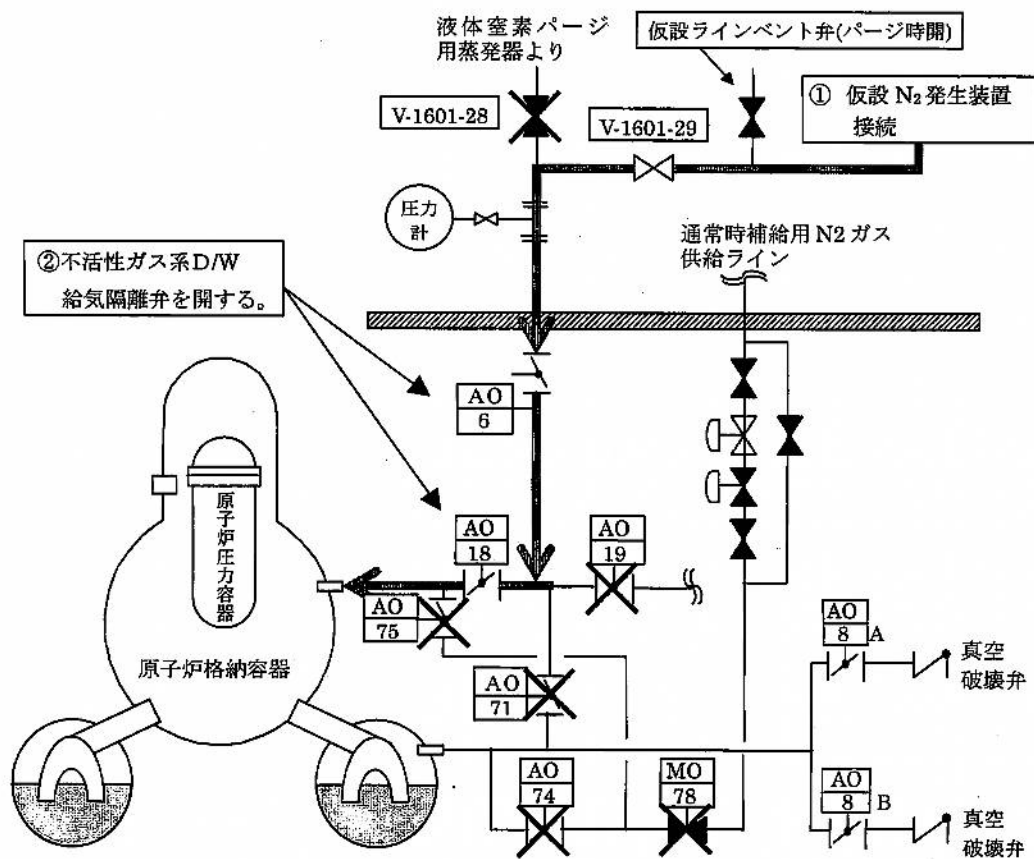


図6 原子炉格納容器への窒素ガス封入 系統概略図

表 1-1 1F-1 非常用炉心冷却系（ECCS系）機器等の状況

		設置場所	耐震クラス	地震スクラム時	地震スクラム～津波到達直前まで	津波到達以降	備考	
ECCS系	冷やす機能	CS (A)	R/B地下階 (OP.-1230)	A	○	注1	×	津波後、電源・海水系（CCSW）とも喪失
		CS (C)	R/B地下階 (OP.-1230)	A	○	注1	×	津波後、電源・海水系（CCSW）とも喪失
		OCS (A)	R/B地下階 (OP.-1230)	A	○	◎	×	津波前、手動起動(S/Pクーリング)で作動を確認 津波後、電源・海水系（CCSW）とも喪失
		OCS (B)	R/B地下階 (OP.-1230)	A	○	◎	×	津波前、手動起動(S/Pクーリング)で作動を確認 津波後、電源・海水系（CCSW）とも喪失
		CCSW (A)	屋外 (OP.4000)	A	○	◎	×	津波前、手動起動(S/Pクーリング)で作動を確認 津波時、本体海水冠水し、かつ電源喪失
		CCSW (B)	屋外 (OP.4000)	A	○	◎	×	津波前、手動起動(S/Pクーリング)で作動を確認 津波時、本体海水冠水し、かつ電源喪失
		CS (B)	R/B地下階 (OP.-1230)	A	○	注1	×	津波後、電源・海水系（CCSW）とも喪失
		CS (D)	R/B地下階 (OP.-1230)	A	○	注1	×	津波後、電源・海水系（CCSW）とも喪失
		OCS (C)	R/B地下階 (OP.-1230)	A	○	◎	×	津波前、手動起動(S/Pクーリング)で作動を確認 津波後、電源・海水系（CCSW）とも喪失
		OCS (D)	R/B地下階 (OP.-1230)	A	○	◎	×	津波前、手動起動(S/Pクーリング)で作動を確認 津波後、電源・海水系（CCSW）とも喪失
		CCSW (C)	屋外 (OP.4000)	A	○	◎	×	津波前、手動起動(S/Pクーリング)で作動を確認 津波時、本体海水冠水し、かつ電源喪失
		CCSW (D)	屋外 (OP.4000)	A	○	◎	×	津波前、手動起動(S/Pクーリング)で作動を確認 津波時、本体海水冠水し、かつ電源喪失
		HPCI	R/B地下階 (OP.-1230)	A	○	注1	×	津波後、電源喪失（油ポンプ）
		IC (A)	R/B4階 (OP.31000)	A	○	◎	—	津波前、自動起動（原子炉圧力高）で作動を確認 津波後、電源喪失により弁状態確認できず
		IC (B)	R/B4階 (OP.31000)	A	○	◎	—	津波前、自動起動（原子炉圧力高）で作動を確認 津波後、電源喪失により弁状態確認できず
伊注水	M/MC (代替注水)	T/B地下階 (OP.3200)	B	◎	◎	×	津波後、電源喪失	
		プールの冷却	SFP冷却 (FPC系)	R/B3階 (OP.25900)	B	◎	△	×
SFP冷却 (SHC系)	R/B1階 (OP.10200)		A	○	○	×	津波後電源喪失。津波後、海水系（SW）喪失	
閉じ込める機能	格納施設	原子炉建屋		A	◎	◎	×	スクラムまでは通常空調系、スクラム後津波まではSGTSが作動し負圧維持が果たされた。その後、爆発により破損
		原子炉格納容器		A	○	○	×	津波到達前、格納容器圧力に破損を示す徴候は認められず

(凡例) ◎: 運転 ○: 待機 △: 通常電源断による停止 ×: 機能喪失又は待機除外

注1: 本震で比較的大きな揺れを観測した5号機では、地震発生後の3月19日に残留熱除去系を使用しており、当直員によるパトロールからも各系統・設備に大きな損傷は認められていない。
また、これら機器が設置されている原子炉建屋地下階で今般得られた観測記録における最大加速度は、機器の動的機能維持確認加速度[※]を十分下回っている。
このことから、各機能は概ね確保されていたものと推定される。
※ J E A C 4 6 0 1 - 2 0 0 8 「原子力発電所副業設計技術規程」

【出典】「東北地方太平洋沖地震発生当時の福島第一原子力発電所運転記録及び事故記録の分析と影響評価について」（平成23年5月23日 東京電力株式会社）

表 1-2 1F-2 非常用炉心冷却系（ECCS系）機器等の状況

		設置場所	耐震 クラス	地震 スクラム時	地震スクラム～ 津波到達直前 まで	津波到達 以降	備 考	
冷やす機能	ECCS系	RHR (A)	R/B地下階 (OP. -1030)	A	○	◎	×	津波前、手動起動(S/Pクーリング)で作動を確認 津波後、電源・海水系 (RHRS A/C) とも喪失
		RHR (B)	R/B地下階 (OP. -1030)	A	○	○ 注1	×	津波後、電源・海水系 (RHRS B/D) とも喪失
		RHR (C)	R/B地下階 (OP. -1030)	A	○	◎	×	津波前、手動起動(S/Pクーリング)で作動を確認 津波後、電源・海水系 (RHRS A/C) とも喪失
		RHR (D)	R/B地下階 (OP. -1030)	A	○	○ 注1	×	津波後、電源・海水系 (RHRS B/D) とも喪失
		RHRS (A)	屋外 (OP. 4000)	A	○	◎	×	津波前、手動起動(S/Pクーリング)で作動を確認 津波時、本体津波による海水冠水し、かつ電源喪失
		RHRS (B)	屋外 (OP. 4000)	A	○	○ 注1	×	津波時、本体海水冠水し、かつ電源喪失
		RHRS (C)	屋外 (OP. 4000)	A	○	◎	×	津波前、手動起動(S/Pクーリング)で作動を確認 津波時、本体海水冠水し、かつ電源喪失
		RHRS (D)	屋外 (OP. 4000)	A	○	○ 注1	×	津波時、本体海水冠水し、かつ電源喪失
		CS (A)	R/B地下階 (OP. -1000)	A	○	○ 注1	×	津波後、電源・海水系 (RHRS A/C) とも喪失
		CS (B)	R/B地下階 (OP. -1000)	A	○	○ 注1	×	津波後、電源・海水系 (RHRS B/D) とも喪失
		HPCI	R/B地下階 (OP. -2060)	A	○	○ 注1	×	津波後、電源喪失 (補助油ポンプ)
		伊注水	RCIC	R/B地下階 (OP. -2060)	A	○	◎	◎
風扇 (代替注水)	T/B地下階 (OP. 1900)		B	◎	◎	×	津波後、電源喪失	
プール冷却	SFP冷却 (FPC系)	R/B3階 (OP. 26900)	B	◎	△	×	地震発生後電源喪失。津波後、海水系 (S W) 喪失	
	SFP冷却 (RHR系)	R/B地下階 (OP. -1030)	A	○	○ 注1	×	津波後、電源・海水系とも喪失	
閉じ込める機能	原子炉建屋		A	○	○ 注1	×	ブローアウトパネル開放	
	原子炉格納容 器		A	○	○	×	津波到達前、格納容器圧力に破壊を示す徴候 は認められず	

(凡例) ◎: 運転 ○: 待機 △: 通常電源断による停止 ×: 機能喪失又は待機除外

注1: 本震で比較的大きな揺れを観測した5号機では、地震発生後の3月19日に残留熱除去系を使用しており、当直員によるパトロールからも各系統・設備に大きな損傷は認められていない。
また、これら機器が設置されている原子炉建屋地下階で今般得られた観測記録における最大加速度は、機器の動的機能維持確認加速度[※]を十分下回っている。
このことから、各機能は概ね確保されていたものと推定される。
※ JEA C4601-2008「原子力発電所耐震設計技術規格」

【出典】「東北地方太平洋沖地震発生当時の福島第一原子力発電所運転記録及び事故記録の分析と影響評価について」(平成23年5月23日 東京電力株式会社)

表 1-3 1F-3 非常用炉心冷却系（ECCS系）機器等の状況

		設置場所	耐震クラス	地震スクラム時	地震スクラム～津波到達直前まで	津波到達以降	備 考	
冷やす機能	ECCS系	RHR (A)	R/B地下階 (OP.-1030)	A	○	○注1	×	津波後、電源・海水系（RHRS A/C）とも喪失
		RHR (B)	R/B地下階 (OP.-1030)	A	○	○注1	×	津波後、電源・海水系（RHRS B/D）とも喪失
		RHR (C)	R/B地下階 (OP.-1030)	A	○	○注1	×	津波後、電源・海水系（RHRS A/C）とも喪失
		RHR (D)	R/B地下階 (OP.-1030)	A	○	○注1	×	津波後、電源・海水系（RHRS B/D）とも喪失
		RHRS (A)	屋外 (OP.4000)	A	○	○注1	×	津波時、本体津波による海水冠水し、かつ電源喪失
		RHRS (B)	屋外 (OP.4000)	A	○	○注1	×	津波時、本体海水冠水し、かつ電源喪失
		RHRS (C)	屋外 (OP.4000)	A	○	○注1	×	津波時、本体海水冠水し、かつ電源喪失
		RHRS (D)	屋外 (OP.4000)	A	○	○注1	×	津波時、本体海水冠水し、かつ電源喪失
		CS (A)	R/B地下階 (OP.-1000)	A	○	○注1	×	津波後、電源・海水系（RHRS A/C）とも喪失
		CS (B)	R/B地下階 (OP.-1000)	A	○	○注1	×	津波後、電源・海水系（RHRS B/D）とも喪失
	HPCI	R/B地下階 (OP.-2060)	A	○	○	◎	津波後、原子炉水位低下時に自動起動。暫くして高圧蒸気喪失	
	炉注水	RCIC	R/B地下階 (OP.-2060)	A	○	○	◎	津波後に起動。暫くしてトリップ。再起動不能
		MJWC (代替注水)	T/B地下階 (OP.2420)	B	◎	◎	×	津波後、電源喪失
プールの冷却	SFP冷却 (FPC系)	R/B3階 (OP.26900)	B	◎	△	×	地震発生後電源喪失。津波後、海水系（SW）喪失	
	SFP冷却 (RHR系)	R/B地下階 (OP.-1030)	A	○	○注1	×	津波後、電源・海水系とも喪失	
閉じ込める機能	格納施設		A	○	○注1	×	爆発により破損	
	原子炉格納容器		A	○	○	×	津波到達前、格納容器圧力に破損を示す数値は認められず	

(凡例) ◎：運転 ○：待機 △：通常電源断による停止 ×：機能喪失又は待機除外

注1：本震で比較的大きな揺れを観測した5号機では、地震発生後の3月19日に残留熱除去系を使用しており、当該員によるパトロールからも各系統・設備に大きな損傷は認められていない。
また、これら機器が設置されている原子炉建屋地下階で今般得られた観測記録における最大加速度は、機器の動的機能維持確認加速度²を十分下回っている。
このことから、各機能は概ね確保されていたものと推定される。
※JEA4601-2008「原子力発電所耐震設計技術規程」

【出典】「東北地方太平洋沖地震発生当時の福島第一原子力発電所運転記録及び事故記録の分析と影響評価について」（平成23年5月23日 東京電力株式会社）

表 1-4 1F-4 非常用炉心冷却系（ECCS系）機器等の状況

		設置場所	耐震 クラス	地震 スクラム時	地震スクラム～ 津波到達直前 まで	津波到達 以降	備 考	
冷やす機能	ECCS系	RHR (A)	R/B地下階 (0. P-1110)	A	-	-	-	
		RHR (B)	R/B地下階 (0. P-1110)	A	○	○注1	×	津波後、電源・海水系（RHRS B/D）とも喪失
		RHR (C)	R/B地下階 (0. P-1110)	A	-	-	-	
		RHR (D)	R/B地下階 (0. P-1110)	A	⊙ (SFP冷却)	○注1	×	地震時、停電により停止。起動前に現場操作が必要であり、起動する前に津波到達。津波後、電源・海水系（RHRS B/D）とも喪失
		RHRS (A)	屋外 (OP. 4000)	A	-	-	-	
		RHRS (B)	屋外 (OP. 4000)	A	⊙ (SFP冷却)	○注1	×	地震時、停電により停止。起動前に現場操作が必要であり、起動する前に津波到達。津波後、電源・海水系（RHRS B/D）とも喪失
		RHRS (C)	屋外 (OP. 4000)	A	-	-	×	
		RHRS (D)	屋外 (OP. 4000)	A	⊙ (SFP冷却)	○注1	×	地震時、停電により停止。起動前に現場操作が必要であり、起動する前に津波到達。津波後、電源・海水系（RHRS B/D）とも喪失
		CS (A)	R/B地下階 (0. P-1110)	A	-	-	-	
		CS (B)	R/B地下階 (0. P-1110)	A	-	-	-	
	HPCI	R/B地下階 (0. P-2060)	A	-	-	-		
	炉注水	RCIC	R/B地下階 (0. P-2060)	A	-	-	-	
		MJMC (代替注水)	T/B地下階 (OP. 1900)	B	⊙	⊙	×	津波後、電源喪失
プールの冷却	SFP冷却 (FPC系)	R/B3階 (OP. 26900)	B	⊙	△	×	1台は点検。1台は地震前に運転中。地震後通常電源断により停止。	
	SFP冷却 (RHR系)	R/B地下階 (0. P-1110)	A	⊙	○注1	×	地震時、停電により停止。起動前に現場操作が必要であり、起動する前に津波到達。津波後、電源・海水系（RHRS B/D）とも喪失	
閉じ込める機能	格納施設	原子炉建屋	A	○	○注1	×	爆発により破損	
		原子炉格納容器	A	-	-	-	定検中につき全燃料取り出し、MSIV閉、及びウエル満水。	

(凡例) ⊙：運転 ○：待機 △：通常電源断による停止 ×：機能喪失又は待機除外 -：定検停止中（機能要求なし）

注1：本表で比較的大きな振れを観測した6号機では、地震発生後の3月19日に残留熱除去系を使用しており、当直員によるパトロールからも各系統・設備に大きな損傷は認められていない。
また、これら機器が設置されている原子炉建屋地下階で今般得られた観測記録における最大加速度は、機器の動的機能維持確認許容加速度[※]を十分下回っている。
このことから、各機能は概ね確保されていたものと推定される。
※J EAC4601-2008「原子力発電所耐震設計技術規程」

【出典】「東北地方太平洋沖地震発生当時の福島第一原子力発電所運転記録及び事故記録の分析と影響評価について」（平成23年5月23日 東京電力株式会社）

表 1-5 1F-5 非常用炉心冷却系（ECCS系）機器等の状況

		設置場所	耐震クラス	地震スクラム時	地震スクラム～津波到達直前まで	津波到達以降	備考	
冷やす機能	ECCS系	RHR (A)	R/B地下階 (OP. 940)	A	○	注1	○	津波後、電源・海水系 (RHR S A/C) とも喪失
		RHR (B)	R/B地下階 (OP. 940)	A	○	注1	○	津波後、電源・海水系 (RHR S B/D) とも喪失。
		RHR (C)	R/B地下階 (OP. 940)	A	○	○	◎	津波後、電源・海水系 (RHR S A/C) とも喪失。仮設水中ポンプ設置3/19 (電源復旧) より運転・SHCと非常時熱負荷モード交互運転中
		RHR (D)	R/B地下階 (OP. 940)	A	○	注1	○	津波後、電源・海水系 (RHR S B/D) とも喪失
		RHRS (A)	屋外 (OP. 4000)	A	○	注1	×	津波後、本体海水冠水し、かつ電源喪失
		RHRS (B)	屋外 (OP. 4000)	A	○	注1	×	津波後、本体海水冠水し、かつ電源喪失
		RHRS (C)	屋外 (OP. 4000)	A	○	○	◎	津波後、本体海水冠水し、かつ電源喪失。3/18 仮設水中ポンプ設置、仮設電源受電し使用可。(RHRS A/Cで1台)
		RHRS (D)	屋外 (OP. 4000)	A	○	注1	×	津波時、本体海水冠水し、かつ電源喪失
		CS (A)	R/B地下階 (OP. 940)	A	○	注1	○	津波後、電源・海水系 (RHRS A/C) とも喪失
		CS (B)	R/B地下階 (OP. 940)	A	○	注1	○	津波後、電源・海水系 (RHRS B/D) とも喪失
	HPCI	R/B地下階 (OP. 940)	A	-	-	-	定検停止中	
	炉注水	RCIC	R/B地下階 (OP. 940)	A	-	-	-	定検停止中
		風機 (代替注水)	T/B地下階 (OP. 4900)	B	◎	◎	◎	地震発生後、運転。津波後電源喪失
プール冷却	SFP冷却 (FPC系)	R/B3階 (OP. 32700)	B	◎	△	○	地震発生後通常電源断により停止。津波後、海水系 (SW) 喪失	
	SFP冷却 (RHR系)	R/B地下階 (OP. 940)	A	○	○	◎	津波後、電源・海水系 (RHRS A/C) とも喪失。仮設水中ポンプ設置3/19 (電源復旧) より運転・SHCと非常時熱負荷モード交互運転中	
閉じ込める機能	原子炉建屋		A	○	注1	×	津波後、3/18 屋上に孔開け実施 (水素滞留防止：予防保全)	
	原子炉格納容器		A	○	○	○	格納容器圧力に破損を示す徴候は認められず	

(凡例) ◎：運転 ○：待機 △：通常電源断による停止 ×：機能喪失又は待機除外 -：定検停止中(機能要求なし)

注1：本震で比較的大きな揺れを観測した5号機では、地震発生後の3月19日に残留熱除去系を使用しており、当直員によるパトロールからも各系統・設備に大きな損傷は認められていない。
また、これら機器が設置されている原子炉建屋地下階で今般得られた観測記録における最大加速度は、機器の動的機能維持確認加速度を十分下回っている。
このことから、各機能は概ね確保されていたものと推定される。
※JEA C4601-2008「原子力発電所耐震設計技術規程」

【出典】「東北地方太平洋沖地震発生当時の福島第一原子力発電所運転記録及び事故記録の分析と影響評価について」(平成23年5月23日 東京電力株式会社)

表 1-6 1F-6 非常用炉心冷却系（ECCS系）機器等の状況

		設置場所	耐震クラス	地震スクラム時	地震スクラム～津波到達直前まで	津波到達以降	備考	
冷やす機能	ECCS系	RHR (A)	R/B地下2階 (OP. 1000)	A	○	○注1	○	津波後、海水系 (RHR A/C) が喪失
		RHR (B)	R/B地下2階 (OP. 1000)	A	◎ (SHC運転)	○	◎	津波後、海水系 (RHR B/D) が喪失。仮設水中ポンプ設置、3/19 (電源復旧) より運転 ※SHCと非常時熱負荷モード交互運転中
		RHR (C)	R/B地下2階 (OP. 1000)	A	○	○注1	○	津波後、海水系 (RHR B/D) が喪失。仮設水中ポンプ設置により運転可
		RHRS (A)	屋外 (OP. 4000)	A	○	○注1	×	津波後、本体海水冠水し、かつ電源喪失
		RHRS (B)	屋外 (OP. 4000)	A	◎ (SHC運転)	○	◎	津波後、本体海水冠水し、かつ電源喪失。3/18仮設水中ポンプ設置、仮設電源受電し使用可。(RHRS B/Dで2台)
		RHRS (C)	屋外 (OP. 4000)	A	○	○注1	×	津波後、本体海水冠水し、かつ電源喪失。
		RHRS (D)	屋外 (OP. 4000)	A	◎ (SHC運転)	○	◎	津波後、本体海水冠水し、かつ電源喪失。3/18仮設水中ポンプ設置、仮設電源受電し使用可。(RHRS B/Dで2台)
		LPCS	R/B地下2階 (OP. 1000)	A	○	○注1	○	津波後、電源・海水系 (RHRS A/C) とも喪失
		HPCS	R/B地下2階 (OP. 1000)	A	○	○注1	○	津波後、海水系 (DG (H) SW) が喪失
	炉注水	RCIC	R/B地下2階 (OP. 1000)	A	-	-	-	定検停止中
MJWC (代替注水)		T/B地下階 (OP. 3400)	B	◎	◎	◎	B系はD/G B系起動、電源D系受電により運転	
プールの冷却	SFP冷却 (FPC系)	R/B4階 (OP. 34000)	B	◎	△	○	地震発生後通常電源喪失。津波後、海水系 (SW) 喪失	
	SFP冷却 (RHR系)	R/B地下2階 (OP. 1000)	A	○	○注1	×	3/18仮設水中ポンプ設置、仮設電源受電し使用可。(RHRS A/Cで1台) ※SHCと非常時熱負荷モード交互運転中	
閉じ込める機能	格納施設	原子炉建屋	A	○	○注1	×	津波後、3/18屋上に孔開け実施 (水素滞留防止：予防保全)	
		原子炉格納容器	A	○	○	○	格納容器圧力に破壊を示す徴候は認められず	
その他設備								

(凡例) ◎：運転 ○：待機 ×：機能喪失又は待機除外 -：定検停止中（機能要求なし）

注1：本震で比較的大きな揺れを観測した5号機では、地震発生後の3月19日に残留熱除去系を使用しており、当直員によるパトロールからも各系統・設備に大きな損傷は認められていない。
また、これら機器が設置されている原子炉建屋地下階で今般得られた観測記録における最大加速度は、機器の動的機能維持確認加速度[※]を十分下回っている。
このことから、各機能は概ね確保されていたものと推定される。
※JEA C4601-2008「原子力発電所耐震設計技術規程」

【出典】「東北地方太平洋沖地震発生当時の福島第一原子力発電所運転記録及び事故記録の分析と影響評価について」（平成23年5月23日 東京電力株式会社）